

『長岡温泉』

最初のプランでは、中越地震後組合員が復興のため力をあわせて設立した「やまこし錦鯉生産組合」の錦鯉養殖施設をゴールにしていたが、駐車場もなく、買う意思もなく観光的にお邪魔するのに気が引ける雰囲気だったので、長岡温泉にゴールを置いた。長岡温泉には3軒ほど旅館があったらしいが、やはり中越地震の影響で、今営業しているのは「湯元館」だけである。湯元館もかなりレトロな雰囲気であるが、日帰り温泉も楽しめる。入浴料は400円と安い。是非ゴール後の疲れを取ってから帰路についてください。

『林道 猿倉線?』

「ツーリングマップル・関東甲信越」に、「断続的な走りやすいダート。尾根は景観よし」と紹介されている。簡易舗装が断続的に入るが、約5kmほどの超上質ダートが楽しめる。コマ図15図先にある広場からは景観が楽しめる。

『林道 金倉山線』

クイズにしたが20図からの眺望も良いが、その先へ進むと、棚田の風景を見ることが出来る。5CPを置いた金倉山山頂駐車場からは信濃川や小千谷市や長岡市が一望できる。

『山古志トンネル』

コースはトンネルを迂回しているが、25図の少し手前に左手に通行止めになっている道が残っている。少し先を眺めると、ガードレールや雪崩防止柵を見る事が出来る。ここは、2004年の中越地震で崩落した国道291号線跡である。

『木籠集落』

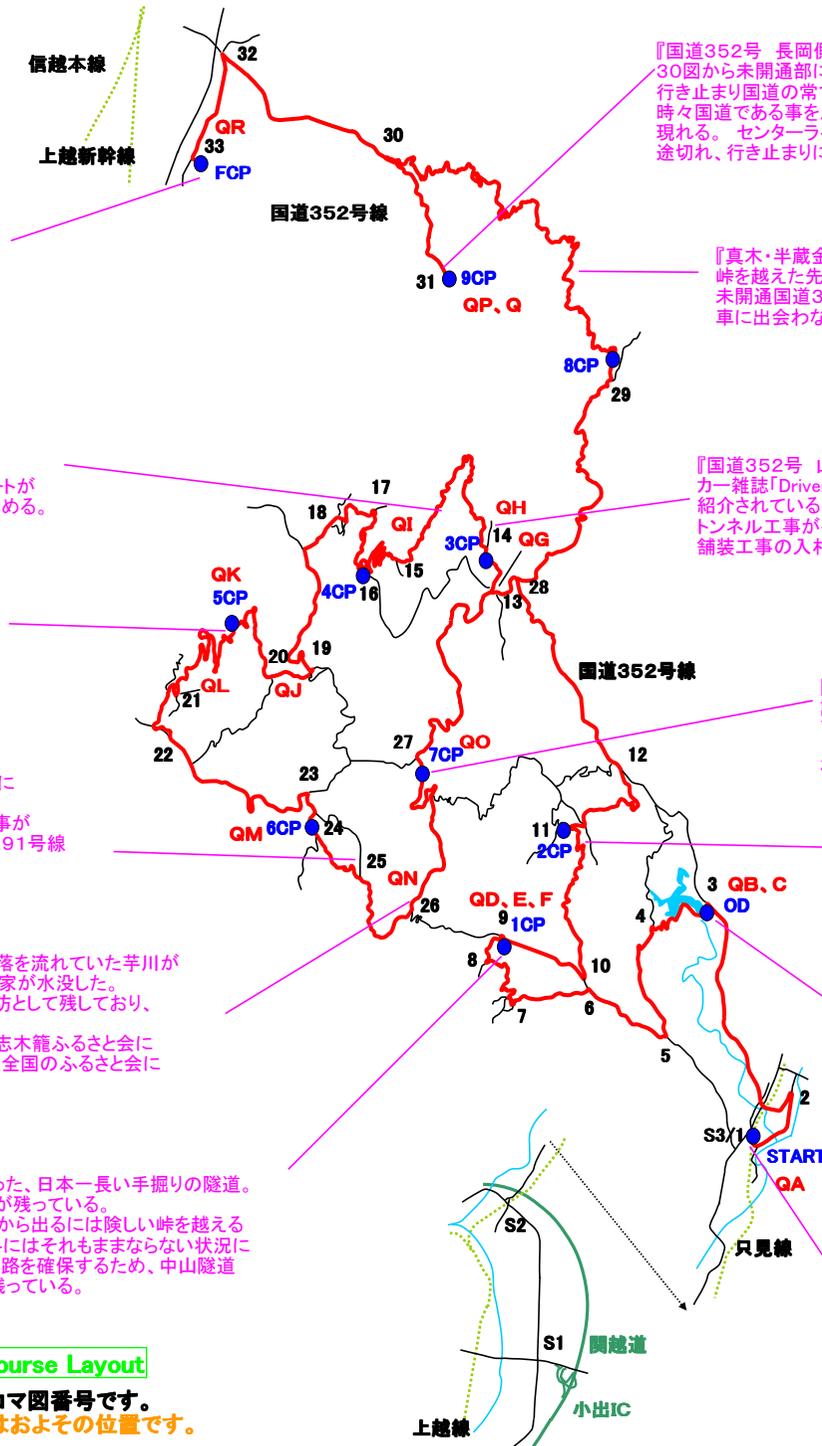
2004年の中越地震により発生した地滑りにより、集落を流れていた芋川が堰き止められダムになり、全24世帯のうち14世帯の家が水没した。下流への被害を食い止めるため、堰止湖を自然堤防として残しており、水没した家々もそのまま残っている。水没した家々を望める高台にある「郷見庵」は山古志木籠ふるさと会により運営されており、1階の売店には地元だけでなく全国のふるさと会に賛同した方の手作り品が並んでいる。

『中山隧道』

昭和初期、住民がツルハシで掘った、日本一長い手掘りの隧道。坑内には現在もツルハシの痕跡が残っている。この辺りは周りを山に囲まれ、村から出るには険しい峠を越える必要があり、また雪深い場所で冬にはそれもままならない状況になる。子供たちの学校への通学路を確保するため、中山隧道以外にも手掘りの小さな隧道が残っている。

shixpoDR#20 Course Layout

小さな黒数字はコマ図番号です。
※クイズの位置はおよその位置です。



『国道352号 長岡側未開通部』

30図から未開通部に向かって、緩やかに登って行く。行き止まり国道の常で、道幅は1.5車線幅の道が続くが、時々国道である事を思い出さずか、センターラインが現れる。センターラインがある広い道幅のまま突然舗装が途切れ、行き止まりになる。こちらも全く工事の気配がない。

『真木・半蔵金林道』

峠を越えた先には別荘地もあるが、4m規格の林道が10km以上続く。未開通国道352号線の迂回林道とも考えられるが、試走時は1台も車に出会わなかった。

『国道352号 山古志側未開通部』

カー雑誌「Driver」誌の企画「ニコニコドライブ」でも写真入りで紹介されている。工事中の看板も朽ちかけ始めており、トンネル工事が行われている気配が伺えないが、萱峠トンネル舗装工事の入札結果があったりするので、工事は進んでいるのか?

『山古志闘牛場』

試走日が丁度闘牛が開催日であったが、私が着いた時間が遅く丁度終わった所だった。月に1回の開催の様なので、見たい方、混雑が嫌な方は開催日を確認してから参加してください。ちなみに観覧料は2000円。

『県道514号線』

3ヶ塔国道でも凄いな新潟の3ヶ塔県道。途中までは狭いながらも舗装されていたが、突然ダートになる! 11図を直進した辺りは、3ヶ塔県道が交錯するミステリーゾーン(?)だが、今回は素直に農道を走る事とした。

『広神ダム』

計画から完成まで約30年要し、2011年6月に完成した新しいダム。氾濫を繰り返した和田川の治水及び農業用水の確保と水力発電を目的としたダム。群馬の某ダムより目的が明確です(笑)

『JR只見線 越後広瀬駅』

単式ホーム1面1線だけの無人駅。運転本数の少なさに驚かされるが、駅前の駐輪場には10台くらいの自転車やバイクがあった。しっかり高校生などの足になっている事が伺える。1971年(昭和46年)には映画「男はつらいよ 奮闘篇」の冒頭シーンのロケ地となったが、説明板など何も無かった。